

# JANU

国立大学協会情報誌  
Quarterly Report

Spring 2005

春号

## Book Overview

### ◆特集

- 1 国立大学の  
学部入学試験最前線
- 3 国立大学施設の現状

### 4 ◆Opinion

大学基準協会会長  
法政大学総長・理事長

**清成忠男氏**

### ◆学生からのメッセージ

単独の箱根駅伝参加者

**松本 翔君**

### ◆連載企画

- 5 支部通信

### 7 ◆Topics

国立大学法人のリスクを  
総合的にカバーする保険が誕生!

サテライトオフィスを設置、  
ネットワークが拡充

### ◆One Point Information

全国の学長プロフィール

国立大学の  
学部入学試験  
最前線

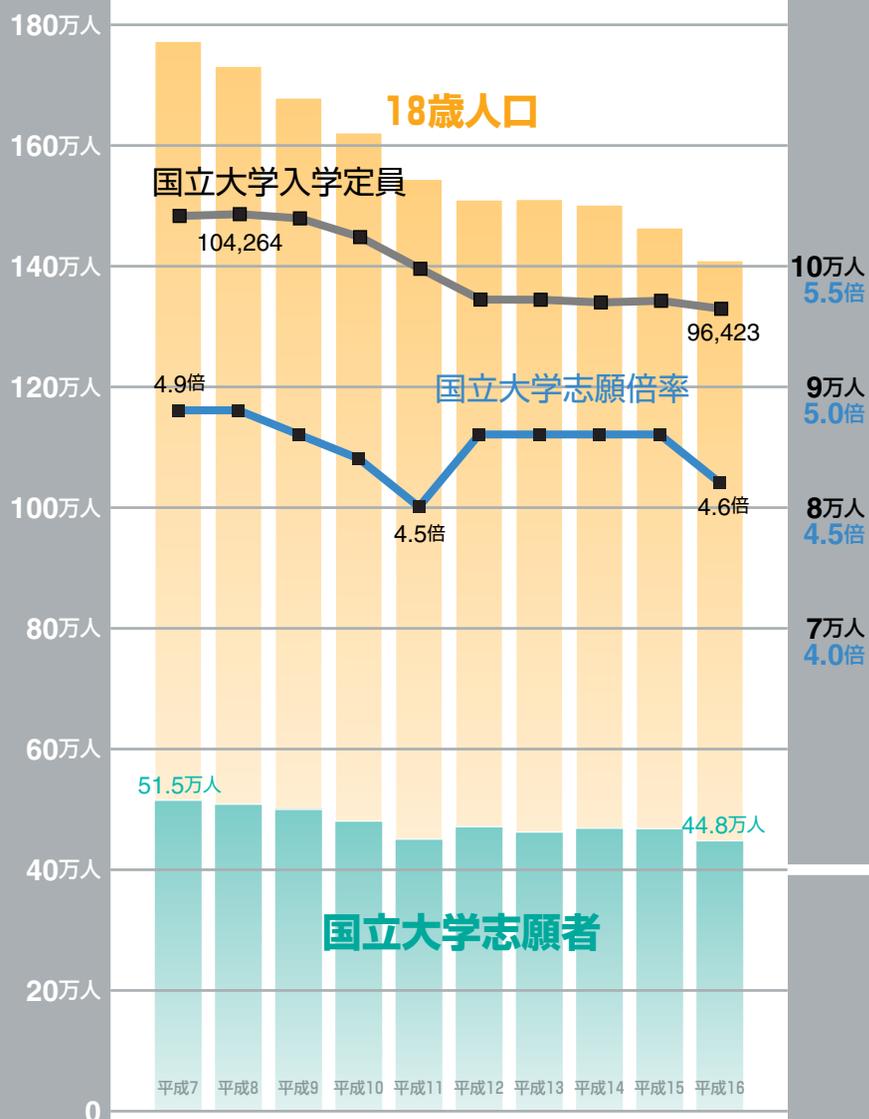


## 国立大学入学者選抜試験の概要

〈平成17年度〉

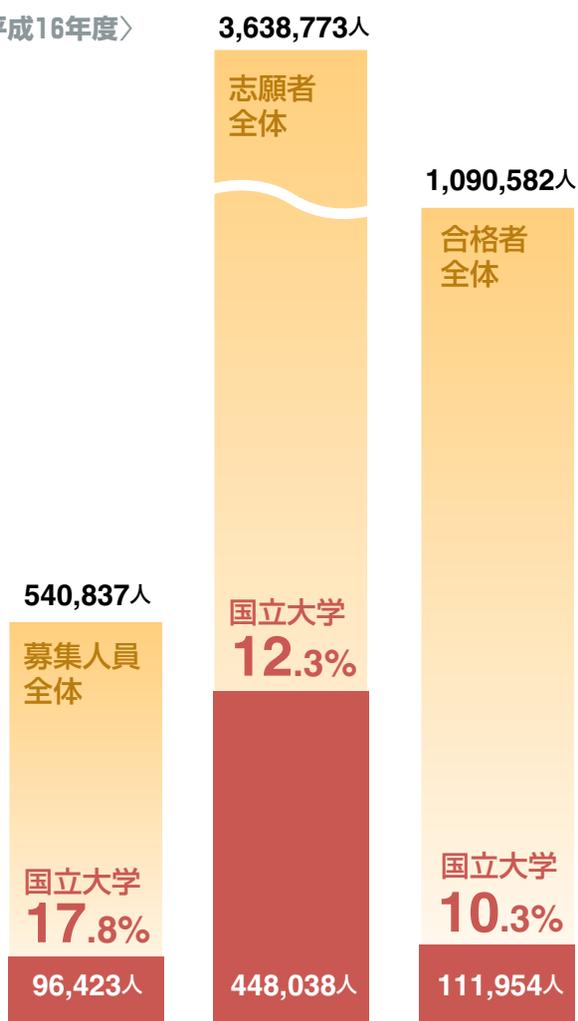


## 入学定員、入学志願者数の推移



## 国立大学の占める割合

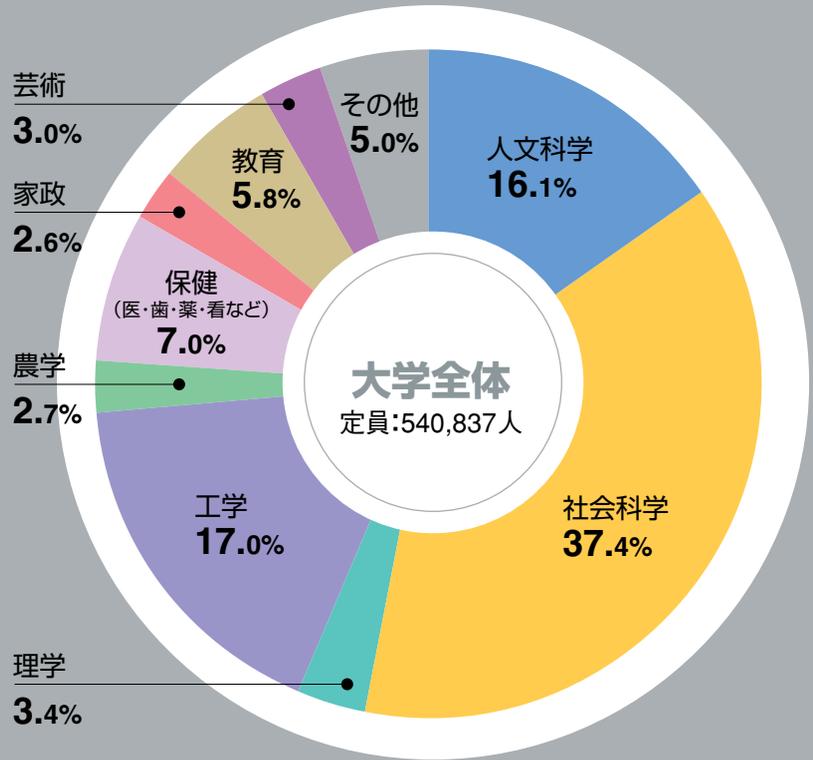
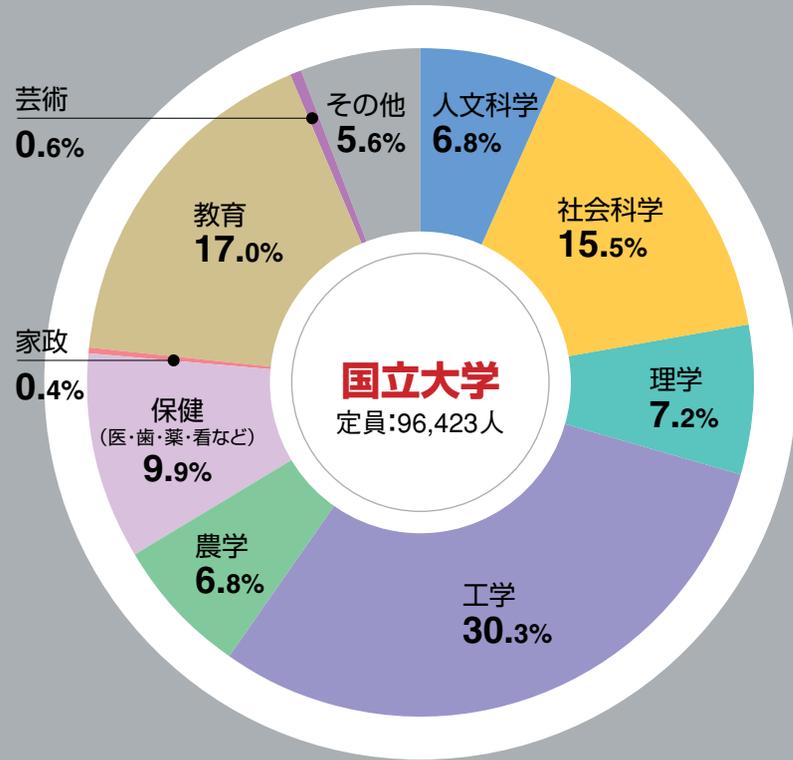
〈平成16年度〉



法人化によっていま国立大学は大きく変わろうとしています。こうした背景のもと、入学試験制度も変革の時を迎えようとしています。今号では、入試制度の実態と、それをとりまく環境、そして新しい流れについてご報告します。

## 大学入学者選抜学部系統別募集定員の割合 <平成16年度>

国立大学は工学系、保健(医・歯・薬・看など)、教育の分野の受け入れが多い

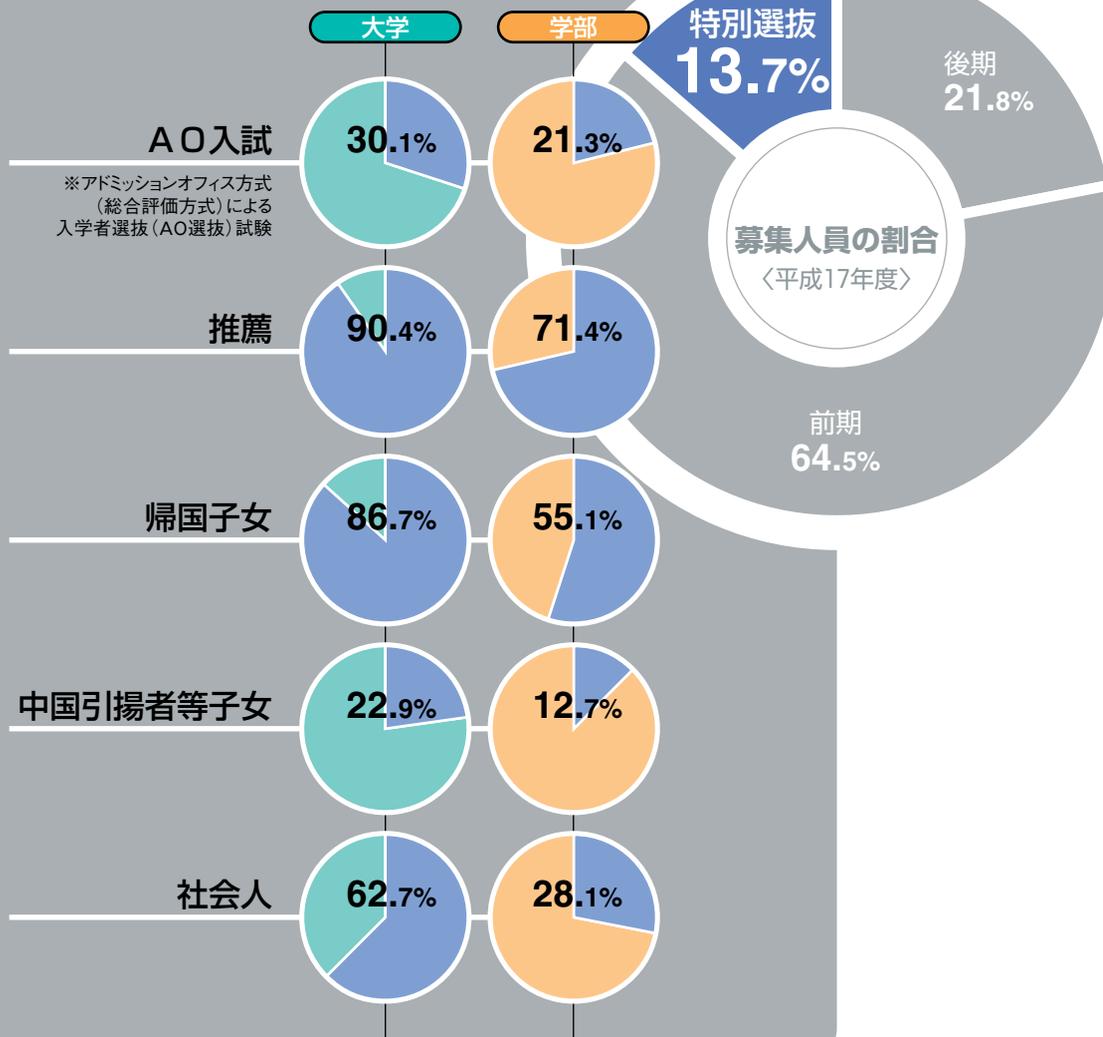


# 国立大学入試の実態

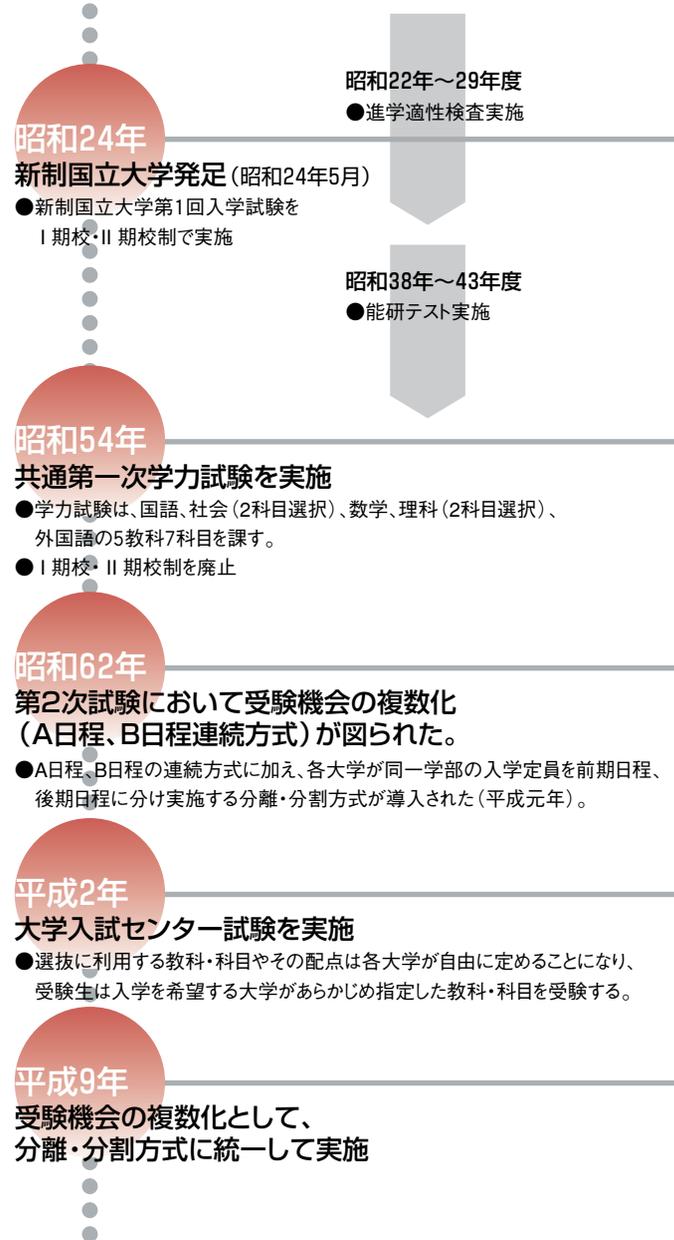
資料:文部科学省

## 特別選抜を導入している大学・学部の割合

13,246人分(全体の13.7%:平成17年度)の特別選抜枠を設けている



## 国立大学入試制度の変遷



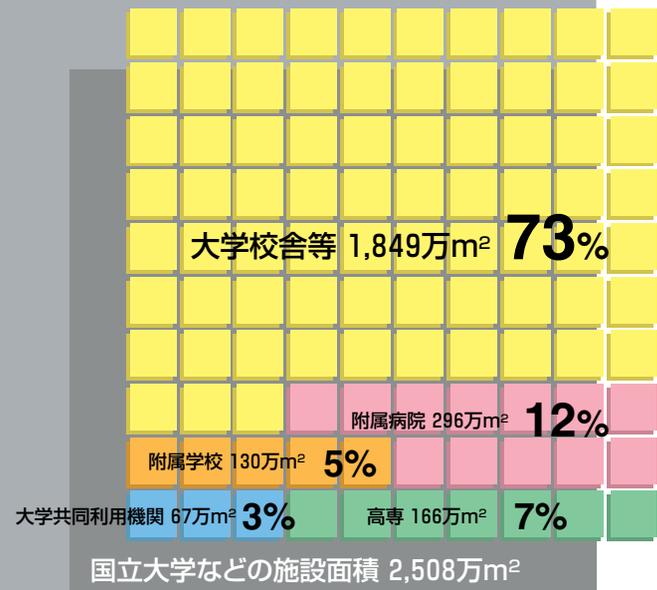
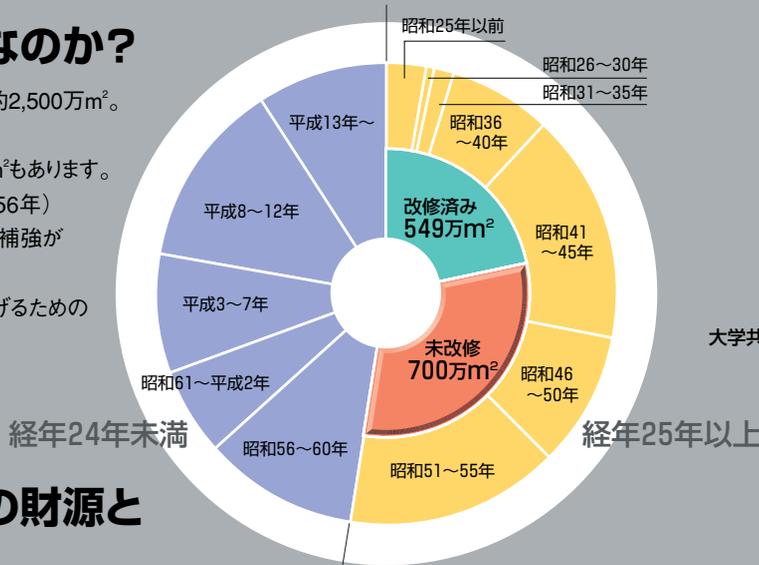
教育・研究に集中できる安全かつ魅力的な施設づくりを

# 国立大学施設の現状

優れた研究成果を創造するためには、研究者が安心して研究に打ち込める環境が不可欠です。また、魅力的な環境が整うことで、国内外から優秀な人材が大学に集まってきます。このため現在、「国立大学等施設緊急整備5か年計画」により、整備を進めてきましたが、老朽化した施設の改善整備の遅れが、国立大学が抱える重大な問題の一つとして顕在化しています。

## なぜ施設整備が急務なのか？

現在、国立大学等施設の総面積は、全国で約2,500万㎡。経年25年以上の施設が半数以上、この内改修が行われていないものが700万㎡もあります。それらは現行の耐震設計基準に改正（昭和56年）される以前の施設であり、耐震診断と適切な補強が必要となります。こうした安全面に加え、教育・研究効率を上げるための機能面の確保も重要な課題となっています。



## 国立大学等施設整備の財源とその内訳は？

国立大学における施設整備の財源は、基本的には国からの補助金で賄われています。さらに国立大学財務・経営センターによる施設費交付金や長期借入金があり、他に病院収入や寄付などの各国立大学法人の自己資金が活用されています。



区分	交付等の主体	財源	対象	概要
施設整備費補助金	国	一般会計予算	・施設整備 ・大型設備 ・不動産購入	国立大学法人等の施設整備の基本的な財源として、一定の基準に基づき国が定額を補助するもの。毎年度の整備方針を公表し、有識者の評価による競争性の高い事業選定を行っている。
施設費交付事業	国立大学財務・経営センター	土地処分収入等	・船舶建造 ・災害復旧	国立大学法人等が土地を処分して得られた収入の一部をセンターが一括管理し、全体の施設整備財源として活用するもの。国立大学法人等全体の均衡の取れた施設整備を実現する。
施設費貸付事業		長期借入金等	・病院の施設整備 ・病院設備 ・キャンパス移転	病院再開発等、多額の費用を要する事業を安定的に進めるためのもの。センターが一括借入し、各大学に必要な額を貸付、大学は病院収入や移転後の土地処分収入で返済する。
各大学独自の整備事業	各国立大学法人	自己収入等	大学の施設整備全般	寄付、病院収入、その他の自己収入を活用し、各国立大学法人が自主的な判断によって施設整備を実施するもの。

## 「国立大学等施設緊急整備5か年計画」とは？

国立大学の施設整備は、平成13年3月に閣議決定された「第2期科学技術基本計画」で老朽化、狭隘化の改善が重要課題として位置づけられました。これを受けて文部科学省が「国立大学等施設緊急整備5か年計画」を策定。現在重点的・計画的な施設整備を進めています。

### 国立大学等施設緊急整備5か年計画の概要

●重点的整備:緊急的に必要な整備約600万㎡ ●所要額:約1兆6000億円

#### 優先的目標(約210万㎡)

- 大学院重点化により、倍増された大学院生の研究棟整備(約120万㎡)
- IT、ナノ、ライフサイエンス等世界水準の研究を推進するための卓越した拠点施設、産学官連携(支援)施設(約40万㎡)
- 高度先端医療や地域の中核的医療機関としての大学附属病院の再開発整備(約50万㎡)

#### 老朽化した施設の改善整備(約390万㎡)

### 施設利用等のシステム改革を推進

この「国立大学等施設緊急整備5か年計画」では、施設整備に加え、システム改革を実施し、施設の効率的、弾力的な利用の推進を行いました。

- 施設の点検・評価、教育研究の活性化等を踏まえた弾力的施設利用の推進
- 各学部等が共有する総合的・複合的な研究棟の整備 ●PFI等、新たな整備手法の導入への取り組み及びコスト縮減
- 全学的な視点に立った施設管理運営システムの構築と施設の有効活用

# いま国立大学の役割や 教育理念があらためて問われています

大学基準協会会長／法政大学総長・理事長

## 清成 忠男氏

### 助成金の配分を公平にすれば 国立大学も私立大学も活性化する

最大の問題点は、高等教育に国が投じている資金が、GDP比率で欧米の半分に過ぎないということではないでしょうか。しかし現状はそれさえも、財政危機から抑えられようとしています。これでは国際競争に耐える人材を形成することが困難です。なによりもまず高等教育に対する財政資金の投入を増やすべきです。

日本の大学教育は、実にその4分の3を私立大学が担っています。国立大学に固有の使命や役割があるとすれば、それを社会や私立大学に説明する責任があります。

レベルの高い教育と研究には、ある程度の資金が必要です。いい教員を集めて、いい教育・研究環境をつくれば、いい教育・研究ができるようになります。現状は、ストックが厚い一部の大大学に資金が集まり、ただでさえ潤沢な大学に使い切れないほどの資金が集まります。一方資金が不足している大学では、常にそれなりの研究しかできないという悪循環のくり返しになっています。このように格差が格差を呼ぶという「ポジティ

ブ・フィードバック」現象が生じているのです。国に望むことは、少なくとも、大学間競争のスタートを同一にしてもらいたいと願っています。支給総額を増やして配分を公平にすれば、国立も私立も活性化するのではないのでしょうか。

### 大学も自己責任の時代。 重要なのはマネジメントとガバナンス

大学間競争が激化していますが、それも法人間競争の段階に移行しています。法人は経営主体として独創性、自立性をもたなければなりません。同時に自己責任が要求され、きちんとしたマネジメントとしっかりしたガバナンスによる経営が重要になるでしょう。

社会が求めている人材は多様化が進んでいます。それだけに、人材育成を担う大学にはしっかりと教育理念が必要です。総合大学では、ユニバシティから各学部や大学院が独自の理念と機能を持った「マルチバシティ」化が進んでいくに違いありません。法人化した国立大学では、改めて理念を考え、整理していく必要があるでしょう。

## Opinion



清成忠男（きよなり・ただお）  
1933年生まれ。1956年東京大学経済学部卒業、  
1973年法政大学経営学部教授、1996年法政大学総長・理事長。  
2003年（財）大学基準協会会長。  
著書：『地域産業政策』（東京大学出版会）、  
『21世紀・私立大学の挑戦』（法政大学出版局）、  
『大淘汰時代の大学自立・活性化戦略』（東洋経済新報社）など多数。

## 新しいステージへの挑戦 学生からのメッセージ

### 陸上でいけるところまでやる。 将来のことを考えるのはそれからでも遅くないと思います

#### 持ち前の負けん気で、 高校時代から学業と陸上を両立

中学時代はサッカー部でした。しかし、足が速かったので陸上部の先生に見初められて時々レンタルされたのです。中2の時は5000mでその年のリストタイムのトップを、中3の時は中学駅伝で、1区の区間新を出しました。そんなこともあって、次第に全国高校駅伝で走ってみたいと思うようになってきたのです。そこで陸上競技の名門校である小林高校に入りました。

下宿したのは駅伝部の横山美和監督宅です。朝7時起床、学校で授業、2時間練習、帰宅後は風呂、夕食、約2時間の勉強、就寝…と判を押したように規則正しい生活を送りました。負けず嫌いですから、陸上も勉強も中途半端にはしたくなかったのです。もちろん全国高校駅伝大会にも2回出場しました。1万mでは県の高校記録を出しましたが、これは全国の高校生で5番目ぐらいの記録です。

#### 官僚志向で選択した東大 箱根を走った今は……

東京大学を意識したのは、高校2年のころ。文部科学省の官僚になりたいと思ったからです。

子どもたちの学力低下が気になった—といったら生意気でしょうか。官僚になるには、東大がよさそうに思えたのです。

大学では、授業と家庭教師のアルバイト、練習

### 東京大学文科I類1年 松本 翔君



をきちんとタイムマネジメントしています。高校とは、練習環境が違いますから、自分なりに練習プログラムを考えなくてはなりません。

昨年10月の箱根駅伝予選会の記録から、関東学連選抜に選ばれました。東大生では21年ぶりだそうです。箱根では、復路の8区を走りました。ところが、中間地点を過ぎたころから左足に痛みが走って失速してしまいました。タイムは20人中10位。それでも受験勉強中のブランクや夏の練習不足などを考えると、結構やれたかなと思います。

大学入学当初は、官僚を目指していましたが、一方でいけるところまで陸上で頑張りたいという気持ちもあります。いずれにしても普通では終わりたいくないという思いがあります。将来に関しては、自分の中にさまざまな選択肢をもっていると思います。やるだけやったら、政界に打って出ることも……。

松本 翔（まつもと・しょう）  
1985年生まれ。  
宮崎県門川中学、小林高校を経て東京大学文科I類に入学。  
小林高校駅伝部時代は、第52回、第54回の全国高校駅伝大会に出場。1万m宮崎県高校記録保持者。第81回箱根駅伝では関東学連選抜で8区を走る。

# 全国発、国立大学の新しい風をお届けします

From Hokkaido

## 小樽商科大学

### 小さな大学の大きな投資 複合商業ビルに「札幌サテライト」

小樽商科大学札幌サテライトは、本年4月から札幌駅前の複合商業ビル「sapporo55」に場所を移し、新たな可能性を探ろうとしています。旧サテライトは平成9年に本学同窓会組織である緑丘会の助成をいただき、札幌時計台隣の北海道経済センターにオープンしました。北海道経済の中心地、札幌での教育研究拠点として多彩に活用され、大きな成果をあげてきました。昨年4月、主として社会人を対象とするビジネススクール（専門職大学院、定員35名）を開校しましたが、平成17年度は完成年度を迎え、手狭となることから新サテライトへの移転を計画していました。

新サテライトは旧サテライトのおよそ2.7倍の466平米。大、中、小3つの講義室の他、ミーティングルーム、事務室、図書室、自習室などがワンフロアに設置されます。商科系単科大学である本学の規模からすれば大きな投資かもしれませんが、立地の良さ、使い勝手の良さを最大限利用して本学飛躍の要としたいと考えています。



札幌駅前に完成する複合商業ビル「sapporo 55」



新サテライトはビジネススクールの授業、リエゾンオフィス、セミナー等で利用する

From Tokyo

## 東京外国語大学

### 多言語多文化を学ぶ・実践する・担う 地域に暮らす外国からの子供たちへの学習支援

東京外国語大学では、ますます多言語多文化になりつつある現代日本のニーズに応える人材を育成するために、「多文化コミュニティ教育支援室」を設置し、地域の小中学校における学生ボランティア活動を推進しています。

学生は、大学で学んだ世界諸地域の文化や言語や社会に関する知を活かし、子供たちの母語を使って子供たちと交流し、教材の翻訳など学習支援を行います。本学では、こうした学生ボランティア活動を教育の一環ととらえ、そのフォローアップのほか、ボランティア活動の質の向上と人材育成のための教育研修プログラムの開講や、よりよいボランティア活動のあり方の研究を行なっています。また、外国人児童生徒への理解が深まるよう、国際理解を深めるための、学校・地域における各種講座を実施します。

この取組みは、複数の言語や文化が響きあう豊かな地域社会の実現に寄与しようとするものです。



横浜市鶴見区で開催されたブラジルのお祭り「フェスタ・ジュニーナ」



「日本・ブラジル交流のつどい」(東京外国語大学と静岡県大東町が共催)で子供たちと交流

From Tohoku

## 福島大学

### 福島大学の教員・学生が出張トレーニングで 近隣の保原町住民の健康維持増進をサポート！

平成16年度より福島大学と保原町が共同研究を結び、町内の介護福祉施設などを利用して町の中高齢者を対象とした筋力向上トレーニングを実施しています。

町としては中高年者の介護予防・活力維持を目的としています。大学では教育学部の保健体育科の学生を中心に大学で学んだ運動生理学やトレーニングの理論を実践する場となっています。

トレーニング期間に、筋力トレーニングはもちろん簡単なゲームを実施するなど参加者同士あるいはスタッフとのコミュニケーションを図っていきます。そうすることで12週間のトレーニングを終えた参加者は、体力が向上するだけでなく大変表情も明るくなってきます。参加者の「毎週の教室を楽しみにしていますよ!」という言葉に、学生は大きな充実感と責任感を感じてもっとよいサービスを提供しようと試行錯誤するようになりました。大学と地域がとても良い結びつきになっています。



12週間のトレーニングを終えた人には、町長から修了証が授与される

筋力トレーニングの様子。皆さん真剣そのものの表情



From Kanto・Koshinetsu

## 埼玉大学

### 「浦和レッズ」「大宮アルディージャ」と協定締結 公開講座などで力を合わせて地域貢献を

浦和レッズ、リーグ戦初制覇。大宮アルディージャ、J1昇格。

地元Jリーグクラブの活躍に湧いた2004年の「さいたま」。その年の暮れ12月14日に埼玉大学は両クラブとそれぞれ地域貢献を目的とした協定を締結しました。埼玉県のサッカーは明治41年、本学教育学部の前身「埼玉師範」の蹴球部創設が始まりと言われており、また浦和レッズのエンブレムの建物は当時の校舎「鳳翔閣」がモチーフとなっています。このように本大学は「埼玉サッカー発祥の地」の当事者であり、両クラブとともに地域貢献活動をより一層充実していきます。

その一つとして4月からは両クラブの協力を得て「スポーツ・マネジメント概論」を開講します。スポーツビジネスとは何かを両クラブの経営を活きた題材として探求します。同時に一般の方々にも無料で受講できるよう公開講座とします。

今後、様々なアイデアを募って地元「さいたま」のまちに貢献していきます。



田嶋埼玉大学長(右)と握手を交わす犬飼基昭浦和レッズ代表(左)



田嶋埼玉大学長(右)とがっちり握手、小玉雅俊大宮アルディージャオーナー(左)

## 大学の森を市民に開く 「角間の里山自然学校」

「角間の里山」。金沢大学には、74ヘクタールにも及ぶ広大な里山ゾーンがあります。この恵まれた自然環境を教育やCOEプログラムをはじめとする研究活動のフィールドとしてだけでなく、青少年の自然体験や地域住民の生涯学習のフィールドとして活用しています。

活動の最大の特徴は、「角間の里山自然学校」の取り組みです。「自然観察」「棚田復元」「竹林整備」「里山講座」…etc。自治体や民間団体との密接な連携により運営され、400人を超える地域住民が里山サポーター「里山メイト」として登録しています。平成11年度からスタートした里山自然学校の輪は年を追うごとに拡がりを見せ、その活発な活動が地域を活性化させるとともに、大学では生涯学習プログラムの開発につながっています。

平成17年4月には、江戸時代の豪農民家を移築する「創立50周年記念館（仮称）」をオープンします。ここに「里山教育研究センター」の機能を持たせ、里山活動や市民に開かれた社会貢献活動を行う拠点として活用します。



地元の子供たちと炭焼きを体験



真剣な表情で…田植えの風景

## 地域歴史遺産の保全活用を図る 自治体・地域住民との連携事業

阪神淡路大震災以来、本学文学部の教官・大学院生は、自治体等と連携し、被災史料や文化財の救出・保全に当たってきました。この活動は全国に広がり、「歴史資料ネットワーク」として発展しています。これを基礎に平成14年、「神戸大学文学部地域連携センター」が設立され、尼崎市でのバーチャルミュージアム立ち上げなど、歴史遺産を活用した地域おこし事業を進めています。また、工学部建設学科の足立教授を中心に、県下生野町などと連携し、旧生野銀山の産業遺産を活用したまちおこし事業も展開しています。

これらの実績が評価され、平成16年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の「地域活性化への貢献」分野で、神戸大学の「地域歴史遺産の活用を図る地域リーダーの育成」が採択されました。神戸大学は、今後も兵庫県下の地域歴史遺産活用による実践的な学生教育、自治体職員・地域住民等の社会人教育のためのプログラム開発を行なっていくつもりです。

学生・院生による生野町（現朝来市）  
鉾山遺構の利活用案の展示風景



1995年3月、阪神淡路大震災被災地での  
歴史資料救出活動



## 生きた環境教育を目指して 「屋上緑化プロジェクト」

島根大学では、生きた環境教育を目指して、ISO14001取得を前提に環境マネジメントシステムの構築に取り組んでいます。屋上緑化プロジェクトも構内緑化環境の改善、省エネ効果の検証、学生の実践活動の場としての活用、技術開発や適性植物の開発を通して都市屋上緑化への適用などを目的に進めています。生物資源科学部3号棟の約1500m<sup>2</sup>の屋上には芝、セダム、サツマイモ、アイビーなどが植栽され、半分程度は各種研究用に活用されています。湿地型の緑化実験が行われている空間では、10cm程度の水槽の中で稲やヨシ、アヤメなどが栽培されています。また、水槽ではメダカやヤゴなどが多量に生息し、潤いのある水辺空間が形成されています。

都市のヒートアイランド現象は年々深刻になる一方です。屋上緑化は必要性が高まると予想されます。楽しみながら環境を改善していくために、学生の実践を通して、ユニークな屋上緑化の手法や植物の開発が進められることが期待されています。



セダム緑化、圃場型緑化（ナタネ・サツマイモ・スイカ等）、低木緑化、フラワー緑化、芝生緑化、ビオトープ緑化などさまざまな手法を実践している

## 原爆被爆を経験した大学として 研究・教育で国際的な貢献を

20世紀の核エネルギー利用による人類的な負の遺産、数百万人を超える放射線被ばく者…。長崎大学では、原爆被害を被った世界で唯一の医科大学を前身とする大学として、「放射線医療科学国際コンソーシアム」の中核を担っています。これは、世界各地の被ばく地でのフィールドワークから得た成果と、長崎原爆の後障害医療研究、チェルノブイリ原発事故・セミパラチンスク核実験場周辺の放射線被ばく者における国際医療と疫学、放射線生命科学の基礎研究の各領域の統合を目的としており、学際的・複合的に新領域を切り開くための世界水準の研究・教育コンソーシアムとして期待されています。

中でも、大規模放射能汚染による放射線被ばくの人体影響、特に低線量による影響を細胞・分子レベルで解明し、最大の問題であるがん発生の予防・診断・治療を飛躍的に発展させることを目指しています。それと同時に、コンソーシアムに参加する海外の主要な大学・研究所との間で、臨床・基礎領域の若手研究者や大学院学生の相互派遣事業を積極的に推進、国際的 researcher の育成と供給を図っていきたく考えています。人と知のダイナミックな交流で、長崎大学が掲げる「世界平和の構築」のために必須の科学的真理をこれからも探究していきます。

ベラルーシからの  
若手研究者の実験風景



TOPICS

# 国立大学法人のリスクを総合的にカバーする保険が誕生!

国立大学協会では、国立大学の法人化に伴い、国立大学法人を運営する上で生じるリスクを総合的にカバーする「国立大学法人総合損害保険」を開発しました。

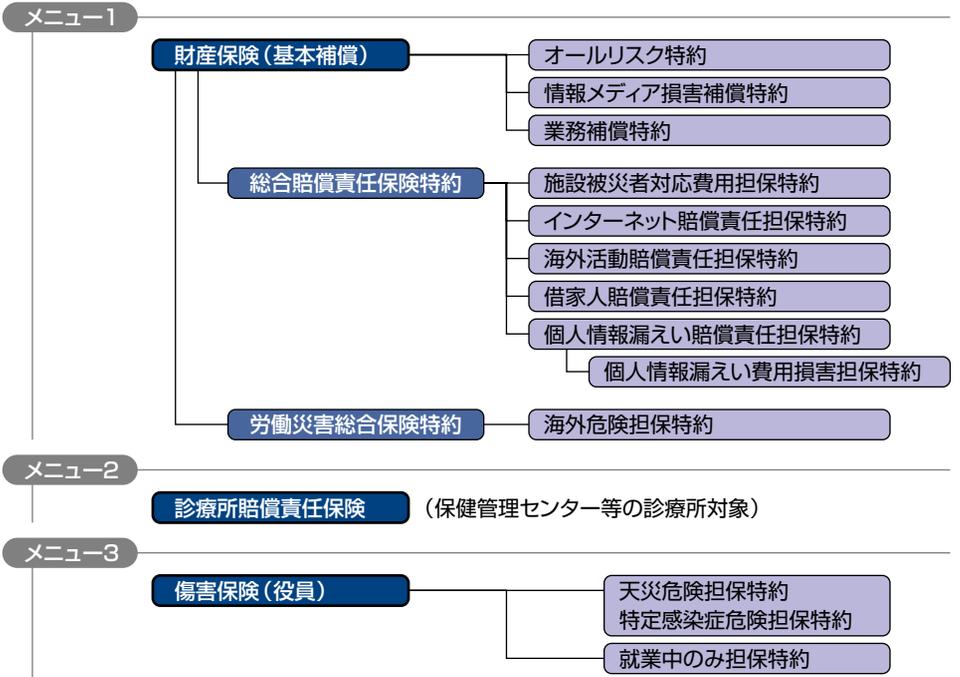
## 国立大学法人総合損害保険の概要

### 主な特徴

- 国立大学法人に共通に必要な保険をパッケージ化
- 事務ロードの軽減
- 格安な保険料

### 開発の経緯

平成15年  
 6月25日 新国立大学協会(仮称)設立準備委員会の第3作業部に国立大学法人総合損害保険開発検討会が設置  
 9月25日 国立大学法人総合損害保険開発検討会「国立大学法人総合損害保険制度の開発検討について-中間まとめ-」を公表  
 10月15日 国立大学法人総合損害保険(仮称)企画提案書を公募  
 10月30日 共同保険引受候補会社を選定、共同開発開始  
 平成16年  
 1月23日 国立大学法人総合損害保険(仮称)商品内容確定  
 2月6日 メニュー1共同保険引受保険会社、メニュー2、3引受保険会社決定  
 12月22日 平成17年度商品内容、引受保険会社決定

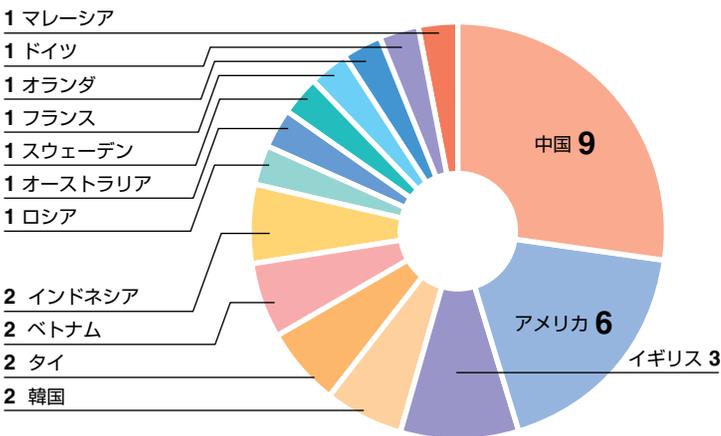


TOPICS

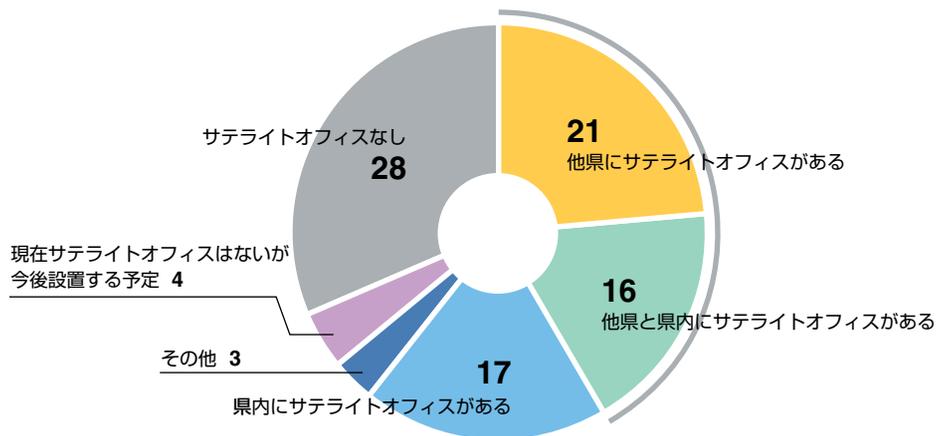
# サテライトオフィスを設置、ネットワークが拡充

近年、国内外にサテライトオフィスを設ける国立大学法人が増えています。以下にその実態をまとめてみました。大学のネットワークの拡充については、あらゆる方面から注目を集めています。

世界に広がる国立大学法人の拠点



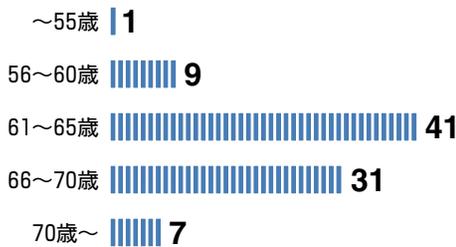
サテライトオフィスがある国立大学法人



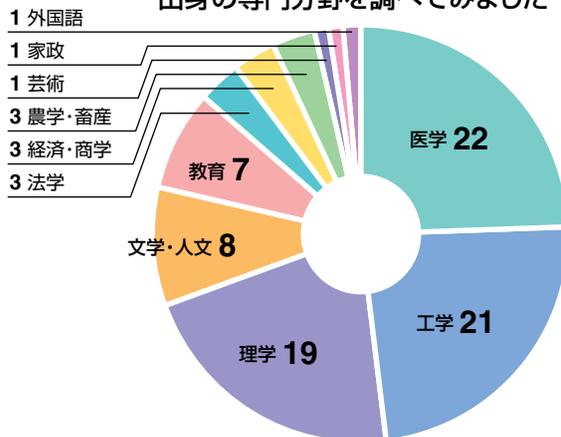
## One Point Information

### 全国の学長プロフィール

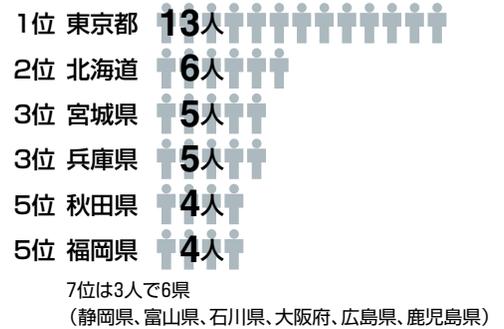
最年少は54歳、最高齢は75歳、平均65.4歳  
 学長の年齢構成を調べてみました



医学・工学・理学、理系出身者が7割  
 出身の専門分野を調べてみました



ダントツトップは東京の13人  
 出身地トップ5



社団法人 国立大学協会  
 The Japan Association of National Universities